

テーマ 循環器疾患 平成25年度漢方医学講座・臨床講座

心房細動における脳卒中発症抑制； 抗凝固療法の重要性

昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門 教授

小林 洋一

(平成26年1月19日収録)

はじめに

最近、新規抗凝固薬が4種類発売されました。以前は、心房細動患者の脳梗塞予防といえば、ワーファリンが唯一の薬だったわけですが、新しい薬が出てきたというわけです。今はワーファリンから、どんどん新規抗凝固薬(Non anti-vitamin K(novel)anti-coagulants:NOAC)に置き換わってきています。

本日は、心房細動により生じる心原性脳卒中の予防についてお話しを進めてまいります。

心房細動の発生頻度とリスクファクター

心房細動というのは非常に多い病気です。皆さん、ドキンと感じたことがあると思いますが、それが期外収縮です。期外収縮は正常の人でも出ます。不整脈の中で一番多い。その次に多いのは心房細動です。心房細動になりますと病的意義が出てきます。頻脈性の心不全になったり、あるいは重症の脳梗塞を起こしたりする頻度が高いので治療の対象になります。

■日本における心房細動患者数の推移(推測値)(図1)

心房細動は非常に多くて、2030年には100万人になるだろうと言われ

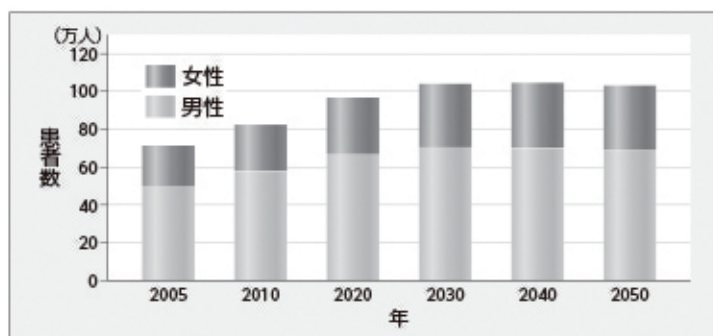


図1 日本における心房細動患者数の推移(推測値)

(Inoue H, et al., Int. J. Cardiol. (Epub), 2008より改変)

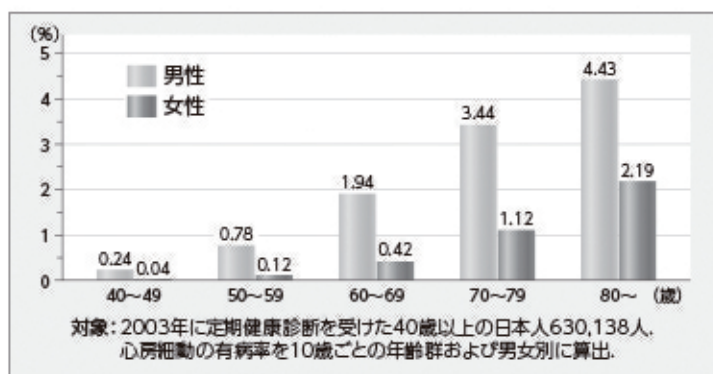


図2 性別・年代別にみた心房細動有病率

心房細動は男性に多く、加齢とともに増加。

(Inoue H, et al., Int. J. Cardiol. 2009 ; 137 : 102-107より作成)

ています。今のところ大体80万ぐらいです。女性には少なく男性に多い。ただ高齢の女性は、いったん心房細動になると重症の人が多く、脳梗塞になりやすい傾向があると言われております。この傾向は、欧米で強いのですが、頭に入れておくべきでしょう。

■性別・年代別にみた心房細動有病率(図2)

心房細動は40歳ぐらいから出てきます。50代、60代と増えていって、80歳の人たちの心房細動の発症頻度は、男性は4.43%、これは海外の半分